

【連載寄稿】

【連載寄稿】

戦後の昭和歌謡について《5》

戦後の昭和歌謡について《5》

山形 俊男

(昭和39年機械科卒)

● 一発屋で終わった戦後の歌謡歌手



(1) 《ガード下の靴みがき》 歌【宮城まり子】 昭和30年

この歌が歌われたのは、敗戦から十年後である。戦後の瓦礫(がれき)の跡や荒廃した街の風景は、朝鮮戦争の特需景気で払拭され、貧しい戦災孤児の靴みがきは殆んど見掛けなくなった。この歌がヒットしたのは、「紅い夕日がガードを染めて…」の哀愁の籠もった詞と、その詞に相乗した感傷的なメロディー、それを大きく膨らませた宮城まり子の伸びやかな歌声にあった。歌には一番と二番の間にセリフが入っていて、生活のために必死に哀願するセリフが聞き手の涙を誘った。



宮城まり子

宮城まり子は小柄で童顔な顔立ちで「俺(おい)ら貧しい 靴みがき ああ 夜になっても 帰れない」を告白し、2番の最終フレーズ「風の寒さや ひもじさにゃ 馴れているから 泣かないが ああ 夢のない身がつかいのさ」と歌う「ガード下の靴みがき」は、彼女自身のこれ迄の苦しい生活心境に見事にマッチしていた。

かつて私も高校時代に秋田県仙北市角館町外れの自宅から約50キロ離れた秋田工業高校に自動車通学していた。朝5時に起床、身支度後1キロ先の最寄り駅に自転車で駆け付け、6時半始発の列車に飛び乗り、夕方6時には帰宅する苦行の3年間だった。

私は2番の最後の歌詞「夢のない身がつかいのさ」を、「夢がある…」に置き替え、辛い通学時代を、未だ見ぬ「将来の夢」を“期待と想像”を膨らませ、私なりの“応援歌に仕立て”て頑張り通した歌だった。私には忘れる事の出来ない“当時の歌”なので選出した。

彼女はこのヒットでスター歌手になり、菊田一夫作・演出で『まり子一代記』を演じて、舞台女優でも評価を高めた。更に静岡県掛川市に肢体不自由児療護施設「ねむの木学園」を、私財を投じて開園し園長として同学園を立派に経営した。「ガード下の靴みがき」をスプリングボードに、宮城まり子は社会的にも知られる名士に育って行った。長年作家の故吉行淳之介さんのパートナーとして知られ、彼女は令和2年93歳で死去した。

(2) 《骨まで愛して》 歌【城 卓矢】 昭和41年

「売れてナンボ」の流行歌の世界は、売るためにはタヌーを敢えて侵す習性がある。禁句とされる領域に踏み込み、話題になる事を願う傾向すらある。昭和41年6月東芝が発売した「骨まで愛して」は、タヌーにまでは切り込まないものの、鬼面人を脅す強さがあった。テイチク下積み時代の菊地正夫から芸名を城卓矢に変えて、東芝から「骨まで愛して」の再デビューは良しとして、専属制度がネックになり作詞川内康範、作曲北原じゅんの本名を名乗れなかった。そこで作詞川内和子、作曲文れいじでレコーディング。「ロマン演歌」として、連日ラジオに集中して流す「骨まで愛して」のタイトルは、聴く者の心を鷲掴みにする衝撃的な詞藻は、大いに受けて大ヒットに繋がった。



城 卓矢

城卓矢に「フォネマデ フォネマデ」と骨を「フォネ」と言う彼独特のイントネーションで畳かけて歌わせる曲調は、フロ中のフロにして可能なテクニク…だった。

「ロマン演歌」とは言え「骨まで愛して」とは、どきつ過ぎるのではないか、東芝レコード制作段階で反対の声があったとしても不思議ではなかった。しかし奇抜な着想を良しとする声も有って、サビの部分で、

「骨まで 骨まで 骨まで愛して ほしいのよ」と畳み込む様に歌われて、肝心のタイトルは生かされ大ヒットに結びついて行った。発売から十数年後の平成3年、レコード会社の専属問題が無くなり、作詞川内康範、作曲北原じゅんに登録名が変わっている。しかし城卓矢は「フォネマデ愛して」の一発屋で終わってしまった。

(3) 《青春サイクリング》 歌【小坂一也】 昭和32年

ロックンロールのキングと呼ばれるエルヴィス・プレスリーの出現は、世界のポピュラー音楽の流れを変えた。昭和31年いち早くこのプレスリーのヒット曲をカバーしたのは、小坂一也だった。一也はコロンビアから昭和27年「ワゴン・マスター」でデビューして、カントリー&ウエスタンのアイドル的存在になった。昭和31年の秋、日比谷公会堂で開かれた小坂一也リサイタルには、会場を埋めた小坂ファンの八割方がハイティーンの女学生。会場は小坂一也の一挙手一投足に「ワーッ」「キャーッ」の嬌声に圧倒されて“小坂ブーム”到来を予兆させた。小坂のこの人気ぶりに着目したのがコロンビアだった。折からのサイクリングブームに着目して、田中喜久子作詞の「青春サイクリング」に彼の歌唱力に叶った曲を古賀政男に作曲させて、若い女性層を取り込もうと企画されたのだった。古賀は「サイクリング サイクリングヤッホーヤッホー」とコールする部分を、ウエスタン&ヨーデル調の旋律を付けて、ハイティーン女性を魅(ひ)きつける配慮をした。そして彼を古賀邸に招いてレッスンを実施。新曲のレッスンに来る歌手には、先ず歌譜を渡した後に古賀が一度ピアノで歌って聴かせ、二度目は古賀に少し遅れながら一緒に歌うのが通例だった。それが小坂は全然歌おうとしなかった。御大は途方に暮れレッスンを途中で打ち切ってしまふ。そして吹き込み当日、先ず楽団演奏に合わせてテストリハーサルを試みるが、小坂はキャンディをしゃぶるだけで歌う素振りすら見せない。それが本番開始の赤いランプが灯ると、彼はやおらマイクに立ち、彼独特のフィーリングで一気に歌い切って、御大を唖然とさせた。「不思議な歌手が出て来たもんだねえ…」とそう言い、御大は“溜め息”をついたと言う。



小坂一也

(4) 《哀愁の街に霧が降る》 歌【山田真二】 昭和31年

レコードに吹き込まれる一曲は、前奏、間奏を含めて、歌い終わるまでが3分20から30秒である。この短い時間の中に、起伏に富んだ人生ドラマが歌い込まれる。また、その歌のオリジナル歌手に選ばれ幸運にもヒットに恵まれた時は、その曲だけで歌謡史に名前が刻まれる。「哀愁の街に霧が降る」を歌った山田真二は、この曲のヒットでイケメン歌手として団塊世代の記憶に残る事になった。



山田真二

作詞佐伯孝夫、作曲吉田正のこの歌は、折からの週刊誌ブームで、雨後のタケノコのように次々と誕生した芸能週刊誌に同名タイトルで連載された小説が、映画化された際の主題歌だった。出版社系週刊誌は、独自の視点と角度から話題を掘り出し、ヒューマン・インタレストの特集を組む事と、連載小説で読者を掴む戦略を練ったのである。

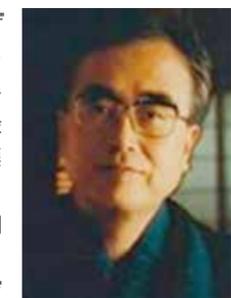
映画、レコード界が週刊誌とタイアップして、宣伝効果を高める方法を取る様になったのは、出版社系週刊誌との連携作戦からだった。作詞と共に小説も書く川内康範は、歌と同じタイトルの小説を連載する時、歌詞を冒頭囲みで載せる相乗作用を取って取っていた。発売部数、レコード枚数が伸びてナンボの分野であるだけに、当時この相乗作戦は歓迎された。舞踏家の山田五郎を父に持つ山田

真二は、姉の山田ナナ子も舞踏家という芸能一家に生まれた二枚目だった。加えて雪村いずみ、弘田三枝子などのマネージャーを務める辣腕家長良じゅんがバックに付いた事で、彼は東宝制作映画「哀愁の街に霧が降る」に青山京子と共演する機会に恵まれ、この一曲で映画スターダムに昇り詰めた。

31年6月にリリースされたこの曲は、高度成長期に歌謡界を席卷する吉田正「都会派歌謡」の完成に導く魁となり、記念すべき一曲になった。当時吉田正は35歳で、その後「泣かないで」「東京午前3時」「夜霧の第二国道」「有楽町で逢いましょう」「公園の手品師」等「都会派歌謡」を次々と作曲して行った。

(5) 《おゆき》 歌【内藤国雄】 昭和51年

“天は二物を与えず”という俚諺(りげん)がある。一芸に秀でた者に、いま一つの芸を与えないと言う事だが、力士に歌手顔負けの歌い手がいるし、将棋界にも“最も将棋が強い歌手”として知られた内藤国雄九段がいた。



内藤国雄

彼は藤内金吾八段の門下生になり、昭和33年十八歳でソロデビューする。“自在流”と呼ばれる自由奔放な戦術で実績を挙げた棋士であった。

棋界には、王将、棋聖、王位、棋王、王座など、最強の棋士を決めるトツの座がある。それら最高棋戦で内藤は、棋聖二期、王位二期を誇り、王将、棋王の奪取には大山康晴に阻(はば)まれていた。

演歌が抜群に上手い内藤国雄に、昭和51年ソニーからレコード発売の企画が持ち込まれた。彼に用意されたのは関根浩子作詞、弦哲也作曲の「おゆき」だった。

「持って生まれた運命(さだめ)まで 変えることなど 出来ない」と歌い始め、結びは「あれは……おゆきという女」という演歌だった。

演歌特有のゆれを見事に駆使した内藤国雄の「おゆき」は、ミリオンセラーのヒットになり歌謡界で王将を奪取した。

尚、余談であるが藤内金吾は関西の天才棋士で有名な坂田三吉の愛弟子で、内藤国雄はその坂田棋士の孫弟子にあたる。





建築●設計●施工

株式会社 トクミツ建築企画

建築施工図／建築積算／工事管理



TOKUMITSU
ARCHITECTURE
PLANNING

取締役会長 徳光 富久 (昭47建)

代表取締役 徳光 慎太郎 (平15機)

〒010-0973 秋田市八橋本町六丁目11-14 ☎ 018(824)1868・FAX 018(824)1898
E-mail tokumitu@jmail.plala.or.jp https://www.tokumitsu-arch.co.jp/